

キャリア教育の視点からの評価と改善

ハイライト：

- ・ 特別支援教育チームの実践から学ぶ
- ・ 社会的・職業的自立に向けて必要となる力を育てる
- ・ 基礎的・汎用的能力を育てる
- ・ 「何も変える必要はない」は誤解
- ・ 小学校は、キャリア教育実践の宝庫

特別支援教育チームの実践から学ぶ

2月5日(火)の一般研修は、特別支援教育チームからの実践報告です。今回の研修の目的は、次のようになります。

- ①特別支援学級と通級指導教室での指導について全職員で共通理解する。
- ②特別支援チームの実践を通して、自分の指導を振り返り、評価・改善を図る。
- ③キャリア教育の視点から、久原小学校の教育活動を評価することで活動の意義を再認識し、改善を図る。

特別支援学級と通級指導教室では、子どもたちに「どのような力を身につけさせていこうとしているのか。」「そのために、どのような指導内容や指導方法を行っているのか。」、実践報告を通して、共有していきます。

その際、自分の指導と重ねながら、聴いていきましょう。学習意欲を高めきれない子どもや学校生活に不安を感じている子どもに対しての指導改善に

つながるヒントがたくさん含まれています。

また、特別支援チームが行っている指導は、キャリア教育の視点から、とても価値のあるものです。さらに、久原小学校がこれまで行ってきた取組も、キャリア教育の視点から価値のあるものがたくさんあります。

今回の研修で、その価値を再認識していき、さらにバージョンアップした久原小学校を創っていきましょう。

2月5日(火)	15:10~16:30
於：会議室	(司会) 井上
1 実践報告	15:10~15:40
・ 県論文報告(松原)	
・ 研究発表会実践(江崎)	
・ 通級教室指導実践①(高山)	
・ 通級指導教室実践②(半田)	
2 協議(近接学年)	15:40~15:55
3 指導・助言(井上)	15:55~16:10

社会的・職業的自立に向けて必要となる力を育てる

キャリア教育とは何かと問われた時、端的に答えると「社会的・職業的自立に向けて必要となる力を育てること」となります。では、必要となる力とはどのような力でしょうか？

例えば、私たちは、教師という「職業人」の面と家庭での「家庭人」という面、住んでいる地域での「地域人」という面を持っています。そして、それぞれのバランスを考えながら生活しています。しかし、もし、家庭人として介護をしなければならぬ状況が生じた時、これまでの経験の積み重ねによる自分の価値観で、そのバランスの変更を決断します。

人は、他者や社会とのかかわりの中で、様々な役割を担いながら生きています。そして、様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいます。このように、自分の役割を果して活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかわり方の違いが「自分らしい生き方」になります。つまり、自分の役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが「キャリア」なのです。キャリア教育は、生き方指導、在り方指導とも言い換えることができるのです。

基礎的・汎用的能力を育てる。

これまでのキャリア教育の在り方の課題として、育成したい能力を高校卒業までを想定し、生涯を通じて育成される能力という観点が薄かったことが挙げられています。社会人として実際に求められる能力とのズレがあったのです。

そこで、この課題を解決していくために、キャリア教育では「基礎的・汎用的能力を育てること」が大切だとされています。これは、社会的・職業的自立に向けての基盤となる能力となります。具体的には、次の4つの力となります。



①人間関係形成・社会形成能力

他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル等

②自己理解・自己管理能力

自己の役割の理解、前向きに考える力、忍耐力、ストレスマネジメント等

③課題対応能力

情報の理解・選択・処理等、本質の理解、課題発見、計画立案、実行力

④キャリアプランニング能力

学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択

特別支援教育、久原小学校には、これらの能力を育成する取組がたくさんあります。

「何も変える必要はない」は誤解

久原小学校では、基礎的・汎用的能力を育成する取組（指導）を、既に様々な面で実施しています。では、何も変える必要はないのでしょうか？

現在行っている学校の教育活動は、すべてキャリア教育にかかわるものです。キャリア教育は、生き方指導、在り方指導なのですから当然のことです。しかし、何も変えないのではなく、キャリア教育の視点からこれまでの実践を見直し、これまでの蓄積を生かし、実践のバージョンアップを図っていくことが大切なのです。

これまでのキャリア教育では、前述

の「課題対応能力」の育成が不十分だったとされています。また、「自己管理」の側面、例えば、忍耐力やストレスマネジメントなどが重要とされています。

委員会活動や各学年や学級で行われているグループ活動、通級指導教室で行われているグループ学習などは、課題対応能力の育成にかかわるものです。また、横山先生のストレスマネジメントの実践は、自己管理能力を高めるものです。

これまでの久原小学校の実践をさらに高め蓄積し、つないでいきましょう。

キャリア教育の
視点から、実践
を振り返り、改善
を図りましょう。

小学校は、キャリア教育実践の宝庫

キャリア教育を進めていくにあたって大切なことは、やみくもにがんばらないことです。カリキュラム等、完璧な表をつくっても実践されなければ意味はありません。今、この学年、この学級の子どもたちのために必要なことを洗い出し、明確な目的を持って取り組むことが必要です。

小学校の実践の誤解で、「将来なりたいもの」への準備をするというものがあります。「夢」をもつこと自体は極めて重要なのですが、現実離れした「夢」を無責任に後押

しすることになりかねません。夢を大切にしながら、現実味のある視点を持たせる指導が必要となります。

例えば、プロ野球選手になりたいという夢をもった子どもがいます。しかし、実際にプロ野球選手になれるのは、極少数です。そこで、なりたい仕事の理由に着目します。「人を感動させたいから」ならば、そういう仕事は他にもたくさんあり、それらを知ることで視野を広げていくことにつながります。